

# ( 美 術 ) 科 家 庭 学 習 方 法

## 1 なぜ、美術を学習するのか

「知恵，手，目」は，人間の優れているといわれている三つの力です。しかし，人間はさらにもうひとつ大切なものをもっています。それは，感じる「心」，感情（気持ち）です。この「心」があるからこそ，美しさを感じたり，それを何かに表現することができますのです。この感じる心は，人間が生きていくうえでとても大切なものなのです。

『美術』は，何も難しいことを学習する教科ではありません。美術は，人間誰もが本来備えもっている「美しさを感じる心」を大切にしながら，「自分の心の動き」や「人に伝えたいこと」を「考える手」によって作りだしていくことが中心です。そしてそれらを「創作する方法や伝える方法」を学びながら，人間が豊かに生きていくのに大切な，心のビタミンを補給する教科なのです。美術を真剣に学んでみてください。きっと心の栄養が行き届いた，心豊かなすばらしい人となることでしょう。

## 2 美術科の学習はこんなことをねらっています。

- (1) 自分のもっているものを，自信をもって伸ばしていこう
- (2) 「つくること」「みること」に喜びを感じよう
- (3) つくり出す心，つくり続ける心，感情豊かな心をもとう

## 3 学習の方法

### (1) 授業を受ける心得は

#### ①『戦わずして勝利する』－準備を大切に－

美術は，自分の思いを形や色で表現する活動です。指示された道具や材料を完全にそろえることから，美術は始まっているのです。

#### ②『一日一歩，三日で・・・』－毎時間の学習目標を持とう－

授業の始めに学習目標を持ち，終りには，反省点を明らかにして，次の授業につなげるようにしよう。

#### ③『弘法も筆を選ばず？』－道具の扱い方－

美術には，実にいろいろな道具が登場します。それらを正しく使い，生かせるようにしよう。そのためには…

ア 道具の使い方の説明をよく聞くこと。

イ 作業中の扱いはていねいに。壊れたら、すぐに申し出よう。

ウ 使用後は、元の位置に整頓して返そう。

#### ④『後かたづけも、センス』－後始末を完全に－

制作活動には、汚れやごみがともないます。それを授業の終わりに責任をもって後始末する姿勢をもつことも、美術では大切です。

#### ⑤『作品は、作者の跡であり、しみである』－作品の取扱い－

完成作品は、自分の分身として大切に扱いましょう。

ア 記名する。

イ 提出期限を守る。

ウ 大切に持ち帰る。

同時に、展示されている作品も、世界にひとつしかないものとして、大切にしましょう。

### (2) 日頃の生活の中で(美術を通じて)

学習の成果は、その教科を学んだことで自分がどのように成長したかにあります。美術は、そのときにつくった作品が残ります。ひとつの制作を通じて、自分がどんなふうに考えて取り組んでいたかということを思い返すことが大切です。

きっとこんな点に影響をあたえているはずです。

①自分の考えをしっかりとめる。

②考えを実行する計画が立てられる。

③ものごとに創意工夫ができる。

④ものごとを深く追求できる。

⑤成し遂げるための集中力がつく。

⑥粘り強く困難にくじけない。

⑦他の人のよさを見つけることができる。

⑧感情を豊かに表現できる。

⑨目的をもった行動ができる。

⑩すべてのものを大切にする心。

美術で学んだことを、さまざまな場面で生かしていこう。

美術は作品をつくるだけの教科ではありません。